

大日本木材防腐（名古屋市、鈴木龍一郎社長）の木造2階建て本社・第2別館（名古屋市中）は、建物で消費する年間1次エネルギー収支をゼロにすることを目指したZEB（ネット・ゼロ・エネルギー・ビル）で、建物のBELS（建築物省エネルギー性能表示制度）評価は最高ランクの五つ星だ。木材保存剤の研究開発体制強化、施設の老朽化対応や労働環境向上を目的に、本社内の研究開発機能ほかを統合。外装には、自社製エステル処理木材「和錬（われん）」を活用し、木造・木質化のモデル的な役割も担っている。

5月に本社敷地内に設置した同館は、延べ床面積499平方メートル。木材は、杉の和錬や天井用の杉CLT、梁・桁のRウッド集成材など122立方メートルを使用。このうち国産材は65立方メートルで、木材の活用による炭素貯蔵量の活用による炭素貯蔵量

木造ZEBオフィスの本社・第2別館

大日本木材防腐

研究開発機能ほか統合

議室ほかで構成。外観は、防蟻・防腐塗装を施した2色の和錬でアクセントを付けた。和錬はエステル処理で木材の曲がり、反り、割れを軽減し、防腐・防蟻にも優れ

た自然の風合いそのままの木材製品で、今回は経年劣化時の交換までを視野に入れたシステムを採用している。

1階床には、防蟻と断熱を両立する基礎用防蟻



上：建物外観には自社製エステル処理木材「和錬（われん）」を使用している
下：2階オフィス

断熱材「サーマックスDMB」を採用している。2階天井は杉CLTの現しで、会議室の壁面ほかで木質化を実践している。また、2階空調は床吹き出し方式で空調負荷を低減。このほか、BCP（事業継続計画）対策として28kWの太陽光発電システム、蓄電池、EV用充電スタンドも備える。プレカットなどを本社敷地内で行うことでSDGsにも配慮しており、会議室テーブルの一部は既設物件から移設して再利用している。

牧野廉親取締役は「本社・第2別館をモデル物件としても活用し、新たな事業提案につなげたい」と話している。